

日本原子力学会「核燃料部会」第21回会員総会

(平成15年秋の大会時)議事録

日時 :平成15年9月24日(木) 12:30~13:00

場所 :静岡大学静岡キャンパス

出席者 :約30名

議事

山脇部会長による議事進行により、下記が報告され承認された。

1. 活動報告

(1) 会報について

平成15年3月の総会で一回/年発行(12月予定)に決定したことにより、第38号(平成14年12月発行)以降、発行していない。前回からの変更点としては、V. 国際会議紹介として『2003年IUPAC高温化学会議の報告(山脇部会長)』、X. 会員の声として工藤氏(原研)、上村氏(原燃工)に執筆していただくこと。IV. 特別講演については、本日午後に講演いただく『IAEAにおける燃料サイクル関連活動について』(IAEA原子力局核燃料サイクル課長 福田幸朔氏)を寄稿していただく旨報告された。

(2) 総会

平成15年3月28日(金):於 アルカスSASEBO

平成15年9月24日(水):於 静岡大学静岡キャンパス

(3) 部会企画セッションプログラム

本日午後、下記の講演を予定していることが報告された。

・『GenerationIV 新型炉構想における燃料材料について』

JNC 大洗工学センター 水野 朋保殿

・『IAEAにおける燃料サイクル関連活動について』

IAEA 原子力局 福田 幸朔殿

(4) 第18回核燃料・夏期セミナー

平成15年度の夏期セミナーの収支は、収入1,620,000円、支出1,303,371円、差額316,629円は核燃料部会に繰り入れる旨の報告があった。今回黒字になった理由は、収入が厳しいこともあり講演を頂いた先生方からも参加費を頂いたこと。また、印刷製本をコピーとし、原研殿に製本作業を行っていただいたこともあり支出を抑えることが出来た。しかし、『核燃料部会メンバーではない講演を頂いた先生からも参加費を頂くのはいかがなものか。』との意見があり、『次回からは核燃料部会メンバーではない先生に講演を頂いた場合は、参加費を頂かない。』ことが確認された。

(5) 運営委員会

平成15年第1回(平成15年1月24日)

平成15年第2回(平成15年3月28日)

平成15年第3回(平成15年7月10日)

平成15年第4回(平成15年9月24日)

(6) 核燃料部会予算および収支

庶務幹事の松本氏から、平成15年度予算及び決算見込みが総会資料にて報告され、確認された。

(7) 運営委員交代

庶務幹事担当の三菱マテリアル(株)の委員が松本邦雄氏から須田佳孝氏に交代になることが報告された。

(8) 運営委員の業務担当交代

総会資料にて平成16年度の担当予定が報告された。部会報担当はZP社ですが、委員が決定されていないので空欄としてある旨報告された。

担当	平成15年度担当者	平成16年度担当者
広報	[阪大] 山中委員	[東北大] 塩川委員
ホームページ	[JNC] 河野委員/庶務幹事	[JNC] 河野委員/庶務幹事
部会報	[四電] 坂井委員	[ZP] ____委員

国際活動	森副部長、 [電中研] 木下委員、 [NUPEC/JNES] 林委員	森副部長、 [電中研] 木下委員、 [JNES] 林委員
国内企画 (横断活動、年会時企画)	[東大] 寺井委員、 [NDC] 和田委員	[九大] 杉崎委員、 [電中研] 木下委員
庶務幹事(財務含む)	[京大] 森山委員、 [MMTL] 松本委員/須田委員	[北大] 佐藤委員、 [東電] 久保田委員
夏期セミナー幹事	[名大] 松井委員、 [原研] 上塚/更田委員	[北大] 佐藤委員、 [GNF-J] 伊東委員

2. 今後の活動計画

(1) 会報

第39号は平成15年12月に発行予定

(2) 第19回核燃料・夏季セミナー

伊東委員から第19回核燃料・夏期セミナーの概要が報告された。費用及び施設を考慮して、開催地は下記のように決定した。

日時 : 平成16年7月14日～17日(予定)

場所 : 北海道 洞爺湖温泉 ホテル天翔

見学場所 : 泊発電所又は日本製鋼所 厚真石炭火力発電所

(3) 総会開催

次回総会は春の年会時(平成16年3月29日～31日 於 岡山大学)に開催する予定。

(4) 運営委員会

来年から運営委員会も原子力学会に合わせて、年度構成とすることが報告された。従って、運営委員の切り替えは平成16年4月となる。次回運営委員会は、従来は1月開催であったが十二月中の開催とする旨報告された。

(5) その他

今後の国際交流およびその他項目について報告があった。

① 韓国との国際交流について

韓国原子力学会Nuclear Materials and Fuel CommitteeのYang氏から次回のJoint Fuel-Material Seminarを10月に韓国で開催したい。日本からの参加者要請があった。日本側は核燃料部会、材料部会および核融合工学部会の3部会の共催であることから、日本側からの派遣者は各部会からの推薦とし、核燃料部会からは山脇部会長が出席することが報告された。

- ・核燃料部会 (山脇先生)

Essence of Verification Test on LWR High Burnup Fuels Sponsored by METI

- ・材料部会 (杉山氏 原研)

LWR Fuel Behavior under Reactivity Initiated Accident Conditions

- ・核融合工学部会 (木村先生)

Fuel Clad Materials R&D for High Burnup Operation of Advanced Water-Cooling Nuclear Energy System (METI Program)

今後の課題は、日本側は3部会共催であることからセミナー開催のルール化(セミナーのトピック、発表者の選考、企画セッションとの関係等)、日本開催の場合の韓国メンバーの支援方法等があることが報告された。

② 軽水炉燃料専門家会議2005年開催について

開催場所は京都テルサで検討されている。組織委員会は出澤取締役(原電)に委員長をお願いし、会場の下見を兼ねて10月3日に第一回組織委員会を京都テルサで行う予定。併せてプログラム委員会を立ち上げる必要がある。会議の名称については『水炉燃料挙動専門家会議 (Water Reactor Fuel Performance Meeting)』の提案があった。今後3年毎にアジアで開催される会議であり、TOP Fuelに負けないような良い名称はないかとの議論があったが、今回は暫定的に提案された名称とし、今後略称を検討することが報告された。

③ 学会誌への連載講座について

『核燃料技術の基礎』連載講座が正式に学会から要請された。連載講座は10回(5ページ/回)、2004年3月から連載開始する。編集委員からは軽水炉燃料を中心に行うように要請されているが、最後に軽水炉燃料以外にも若干触れるような構成にしている。対象とする読者は原子力産業へ携わる新人を考えている。また、従来の連載講座は一人の方又は多数で執筆される場合が多かったが、今回は3～4名の方に執筆いただき進めることとしたい旨報告された。

以上

過去の総会議事録の一覧はこちらです。

[過去の総会議事録一覧](#)

[もどる](#)